

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・**実施結果**）

視点	中期目標（途中改定） （令和5年度策定）	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （1月20日実施）	総合評価（3月21日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習意欲を高め、組織的な授業改善の充実に取り組む。単位制の利点を生かせる教育課程を研究する。</p> <p>②Ⅲ期「ICT活用」「プログラミング教育」の研究推進校として、研究と実践を深める。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善とICTを活用した探究的な学びの充実を図る。</p> <p>②指定校事業の研究や実践を授業改善に活用し、「総合的な探究の時間」等を含む全教科への取り組みとして推進する。</p>	<p>指定校事業を活用し組織的な授業改善に取り組む。授業では、調べ学習や発表の機会を多く設け、ICTの効果的な活用方法を研究し、情報共有を行う。</p> <p>全ての科目でプログラミング的思考を意識した授業展開を行う。公開研究授業を行う。</p>	<p>生徒が主体的に授業に取り組むことができたか。ICTの効果的な活用により、生徒の理解が深まったか。</p> <p>生徒が教科指導を通して、プログラミング的思考を意識し、教科の理解や探究的活動等に、その視点を広げることができたか。</p>	<p>年2回の授業互見週間を実施し、その結果を視覚的にまとめた。2回目には公開研究授業も実施し、多くの参加者があり、相模原市教委や他校の意見も共有することができた。</p> <p>全ての科目で、調べ学習や発表の機会を設け、ICTを効果的に活用し、プログラミング的思考を意識した授業展開を行うことができた。</p>	<p>生徒がより主体的に授業に取り組むことができるよう、ICTの効果的な活用や先進的な取り組みについて研究する。</p> <p>全ての科目で、プログラミング的思考を意識した授業を実施するため、研修を充実させ、個々のスキルを向上させる必要がある。</p>	<p>教育課程の変革に向けて指導方法の改善を進めてほしい。教科の特性に応じた工夫を凝らした授業の展開を期待したい。</p> <p>新校の学習の柱として1人1台端末によるICT活用授業の充実を引続き進めてほしい。生徒アンケート調査結果からも評価されている。ICT活用、プログラミング教育推進にあたり、情報モラルに留意し生徒の学力向上につなげてほしい。</p>	<p>1年次より新校の教育課程を実施しているが、選択科目の配置や組合せ、展開方法等について検討や改善が必要である。単位制や2学期制がまだまだ浸透していない部分がある。教科や担当者によって活用の状況が異なり、1人1台端末の効果的な活用をさらに推進する必要がある。学校全体としては、良く活用できている。今後も、指定校事業を活用することで、環境整備や授業改善を向上させる必要がある。授業では、プログラミング的思考が定着し始めた。引き続き、より定着させるための工夫改善を重ねる。</p>	<p>新校の教育課程を実施しながら、選択科目の配置や組合せ、展開方法等について更に検討や改善を重ねていく。単位制や2学期制を定着させる。1年次では、丁寧な導入指導を実施し、1人1台端末の効果的な活用を推進する。全職員のICTの利活用が定着する中、今後も指定校事業を主体としながら、授業改善を推進し個々の授業スキルを向上させる工夫を行う。プログラミング的思考を意識した授業を実施するだけでなく、学校行事や日々の学校生活にも活用できるよう工夫する。また、そのための研修や自己研鑽の機会を充実させる。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①学校行事や部活動の活性化を通して、主体性と協調性を育み、社会性の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりに対するきめ細やかな支援と規律正しい学校生活への指導の充実を図る。</p>	<p>①様々な学校行事と部活動への積極的な取り組みを充実させ、学校全体の活力とする。また、交通安全教育の充実を図る。</p> <p>②生徒情報を共有し、生徒理解を深めることで、個に応じた適切な支援を行う。また、規範意識の向上に努める。</p>	<p>学校行事では、生徒主体の活動を実践し、新しい工夫を取り入れられる。また、部活動への積極的な参加と入部を促す。交通安全教育を強化し、スクアードストレイトを実施する。</p> <p>様々な場面で生徒情報を共有し、SC・SSWと連携しながら適時にケース会議を実施する。相談窓口を広げ周知する。学校生活アンケートを実施する。</p>	<p>生徒が、学校行事や部活動を通して、学校生活や日常の生活に改善が見られ、アンケート等の結果から充実感や達成感が得られているか。</p> <p>家庭や外部機関との連絡を密にし、組織的に支援ができたか。生徒がより相談しやすい環境を整えられたか。</p>	<p>体育祭、文化祭等で生徒の主体な活動を充実させた。事後アンケートで90%の生徒から充実感のある肯定的な意見集約が得られた。部活動参加を通年で恒常的に促した。</p> <p>相模原市や民間会社と連携し、スクアードストレイトや自転車マナー教室等を実施した。SC等との相談予約を生徒がフォームを活用して直接行えるように改善した。サポートドックによる学校内の連携体制を確立した。</p>	<p>生徒の主体的な活動を育むため、新しい工夫を取り入れながらより充実した学校行事を企画、運営する。部活動の加入率が増えるよう努める。</p> <p>登下校での大きな事故は無かったが、引き続き県教委、地域、家庭と連携し交通安全教育を粘り強く進める。SC、SSWの活用を推進し、より実効性の高い教育相談体制を構築する。外部機関（児童相談所等）との連携を強化し、適切で迅速な支援体制を整備する。</p>	<p>コロナ禍を克服し、生徒主体の学校行事を実施し、生徒の達成感や保護者の喜びを感じる。部活動加入率も向上し生徒の充実した活動の場が確保されている。</p> <p>生徒の通学時の交通事故の防止について交通法規の遵守、ヘルメットの着用等、高校生と地域住民の安全を守る取組みを今後ともお願いしたい。スクアードストレイトは交通事故を考える効果的な機会だった。</p> <p>安心・安全で充実した学校生活のため、効果的な教育相談の体制を構築してほしい。生徒個々の相談や外部機関との連携も引続き推進していただきたい。</p>	<p>部活動の充実を支援することができた。部活動紹介や生徒間の連携を積極的に促し、引続き入部率を上げる取組みの工夫が課題である。生徒会行事では感染症対策、熱中症対策等を万全にし、実施することができた。また、コロナ禍が収束に向かい従前に近い形で実施することで、生徒主体の活動を支援した。</p> <p>P.T.Aと連携した生活見直し週間等では、生徒、教員、保護者相互の豊かな人間関係の構築を醸成し、挨拶の習慣化につなげた。定期的、な学校生活アンケートの実施でいじめ防止の啓発につなげた。</p> <p>交通安全では、学校安全総合支援事業を津久井高校と連携し安全指導を実践した。自転車乗車マナーについては、地域からの通報が多いため今後も継続的に指導が必要である。</p>	<p>生徒主体の躍動感ある学校行事の実施に向け、安心、安全を企図した計画、立案に取り組む。前例踏襲を見直し、積極的な改善を行う。部活動加入率向上のため部活動の広報活動や顧問の相互研修を実施し、連携を強化することで活動の充実を促していく。</p> <p>生活見直し週間については、今後も計画的・組織的に展開し、基本的な生活習慣の向上に活用する。</p> <p>家庭や外部機関との連携をより強化することで、組織的な支援に取り組む。サポートドックを活用し生徒の状況把握と相談しやすい環境を整える。</p> <p>登下校時の交通安全指導、研修や行事の実施、啓発プリントの配付などを通じて、自転車の安全運転を促し事故防止に努める。</p>
3 進路指導・支援	<p>①進路希望の実現に向けて、生徒が主体的に目標を設定し、計画的に実行でき</p>	<p>①生徒が主体的に進路選択できるように、校外での体験や三者面談の充実を図</p>	<p>年次進行に合わせて、計画的で効果的なガイダンスを実施する。三者面談を</p>	<p>生徒が主体的に目標を設定し、多くの生徒が希望の進路を実現できたか。</p>	<p>生徒対象のガイダンスや説明会を充実させ、多くの希望進路を実現することができた。</p>	<p>ガイダンスや説明会に工夫を重ね、職員の協力を得ながら志望理由書やエントリーシー</p>	<p>生徒の進路選択にオンライン等の活用も視野に希望に応える指導をお願いしたい。</p>	<p>1年次の職業人インタビューでは、身近な人の職業を調べ、自らの進路実現への課題を発見し研究発表できた。また、職業ガイダンスでは、企業による講演</p>	<p>今年度の内容を継続しながら、改善や工夫を加え、定着させていきたい。昨年度から始めた、企業を招いた職業ガイダンスでは多くの企業による事業の充実</p>

	視点	中期目標（途中改定） （令和5年度策定）	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （1月20日実施）	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		<p>る指導・支援の確立を図る。</p> <p>②進路実現に有益で、多様な進路に応じた、早く正確な情報提供を行う。</p>	<p>る。</p> <p>②「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を充実させ、計画的で効果的なガイダンスを実施する。</p>	<p>活用し、個々の進路に応じた、きめ細かい進路指導を行う。</p> <p>「総合的な探究の時間」の進路探究活動、校外での体験や外部テストの活用の充実を図る。また、生徒の進路選択に正確で有益な情報提供を行う。</p>	<p>「総合的な探究の時間」による進路探究活動等に新しい工夫があったか。</p> <p>コンソーシアムサポーター拠点校として、その活動を支援し、生徒が有益な活用をすることができたか。</p>	<p>コンソーシアムサポーター拠点校として、今年度初めて1年次に導入したスタディサプリの成果を検証し、生徒の実態に合った活用方法を検討する。</p> <p>ト、面接練習など個の支援を充実させ、進路実現に向けた取り組みを強化する。</p> <p>コンソーシアムサポーター拠点校として、次年度も円滑で充実したインターンシップの運営を行う。</p> <p>今年度初めて1年次に導入したスタディサプリの成果を検証し、生徒の実態に合った活用方法を検討する。</p>	<p>インターンシップは進路を考えるうえで重要で、多くの希望者の受け入れを実践し、企業等との調整を実施した。</p> <p>大学入試では相模原総合高校からの連携を継承し、進学対象を広げた。近年は総合型選抜等、高校での経験的な学習を総合的に評価する傾向がある。生徒会活動、ボランティア活動等が学校の強みになると期待している。</p>	<p>により生徒のみならず、職員も知見を広げることができた。</p> <p>1、2年次で、ワークブックの活用と専門業者による小論文の学習を個々に行った。2年次は小論文の講演会により、入試等に向けた意識づけができた。英検対策では、参加者と合格者が増加している。合格に向けた補習にも注力した。3年次では、進路通信の発行や、進路に関する講演会の実施など、働きかけができた。</p> <p>年度当初に立てた目標について、具体的な方策は、ほぼ実施でき、一定の効果を上げることができた。</p>	<p>や拡充を図りたい。小論文指導では、業者によるテキストと添削を導入し、スキルアップの一助となったので、検証を重ね、効果的な実施につなげたい。インターンシップでは、引き続き相模原地域拠点校としてコンソーシアムサポーターと連携し、希望生徒に応えるため広く受け入れ先を示せるよう業務を進める。</p> <p>3年次では面接ガイダンスを継続して実施するなど、総合型選抜入試の対策強化を図りたい。</p>	
4	地域等との協働	<p>①地域との交流や協働を深め、地域に信頼され開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>②外部（近隣小中学校・大学・専門学校等）との連携や協働を強化し、地域の教育力を積極的に取り入れる。</p>	<p>①本校の情報を地域に発信するとともに、生徒が職業体験等で地域に参画することをとおして地域との連携を深める。</p> <p>②大学との連携授業や地域の学校との様々な連携を継続し、新たな取り組みについても検討する。</p>	<p>本校の教育活動の情報をHPや広報誌等で、地域や保護者に積極的に発信する。</p> <p>外部との連携や協働に、多くの生徒が積極的に参加できるよう工夫し、地域の教育力を活用する。</p>	<p>情報発信や地域に貢献することで、本校の教育活動が理解され、信頼感が高まったか。</p> <p>地域の教育力を活用することで、生徒の自己肯定感を育むことができたか。</p>	<p>学校行事のほか、年次行事等もWebサイトで積極的に発信し、月1回以上の更新を達成した。ひまわりクラブの活動が、TVKテレビの番組で紹介され地域から高い評価を得た。</p> <p>10月に「オープンスクール」を初めて開催し、中学生や保護者に授業や部活動を公開した。</p>	<p>新校の新たな取り組みや特色を積極的に発信し、地域に理解され信頼されるよう努める。指定校事業を中心に、地域や大学等との連携の充実をより一層推進する。</p> <p>「オープンスクール」の取り組みを発展させ、地域に根ざすよう工夫する。</p>	<p>新校の特色ある科目の学習からも地域活動を推進してほしい。</p> <p>ひまわりクラブの公民館行事への活動等、活躍は地域の励みになっている。地域に根ざした学校として一層の努力をお願いしたい。</p> <p>オープンスクール等により、授業や学習活動を中学校、市教育委員会、私立高校等に発信し地区の連携を推進した。</p>	<p>Webサイト等を充実させ、新校の特色や多彩な学習活動をわかりやすく整理し配信した。ひまわりクラブが公民館等、学校外施設で幅広く活躍し地域から高い評価を得た。</p> <p>さらに、豊富な地域の学習資源の活用を図り、積極的な地域連携を図る必要がある。</p> <p>オープンスクール（公開授業）を初めて実施し、学校の特色を発信する新たな事業を実現した。今後も部活動等、開かれた学校を目指す。</p>	<p>学校の特色ある取組や情報を、地域や中学生やその保護者に紹介できるよう、より効果的にWebサイトを活用する。</p> <p>地域との連携を拡充し、関係諸機関との連携を推進する。地域に開かれた学校を目指し、組織的に取組むための体制づくりが必要である。「総合的な探究の時間」や教科「地域研究」を中心に地域の学習資源を積極的に活用する。</p> <p>情報教育では、高大連携をより一層推進する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒の安全・安心な学校生活を維持するため、すべての職員が変化に迅速に対応し、積極的に課題に取り組む組織を構築する。</p> <p>②風通しの良い職場環境を心掛け、事故・不祥事防止に努める。また、学校運営協議会を活用することで、組織的な課題解決力の向上を図る。</p>	<p>①教職員一人ひとりが業務の効率化、改革と協働に取組み、相談しやすい職場環境を醸成する。</p> <p>②働き方改革の推進と事故・不祥事防止の両立について職員の意識を高め、研修会や日常の活動からリスクの低減を図る。</p>	<p>グループや職員間の連携と協働を意識し、連絡や相互の声掛けを大切にすることで、相談しやすい職場環境を整える。</p> <p>効果的な研修を実施し、教職員一人ひとりが、自身の問題として考えられるよう工夫することで事故・不祥事防止に努める。</p>	<p>新校となり、1つ1つの業務を見直すことで、組織的に効率よく業務を推進することができたか。</p> <p>事故・不祥事防止が徹底できたか。学校運営協議会を活用することができたか。</p>	<p>毎月の職員会議で時間外在校等時間の管理を周知し、80時間を超えた件数は昨年より半数以下に減少した。</p> <p>学校運営協議会では、各委員の様々な視点から、有益なご意見や情報をいただき活用することができた。</p> <p>相談しやすい職場環境を心掛け、不祥事防止会議等を20回実施した。</p>	<p>新校となり、1つ1つの業務を見直す機会となり成果を挙げた。引き続き意識改革及び適正な業務分担について取り組む必要がある。</p> <p>事故・不祥事防止の徹底は今後も継続して取り組む必要がある。</p> <p>組織的で、風通しの良い職場環境の更なる推進に注力しなければならない。</p>	<p>新校として工夫して多方面の事業に取り組んだ。その中で時間外勤務について業務の効率化等、働き方改革のより一層の推進をお願いしたい。</p> <p>研修等の実施により職員の事故不祥事への関心や意識をもって業務に臨んでいただきたい。また、教職員の働き方が話題となっている昨今であるが良好な職場づくりを推進し、事故不祥事を防止する組織づくりをお願いしたい。</p>	<p>働き方改革に関する研修、勤務時間管理システムの活用、産業医との連携等で、職員の働き方改革に対する意識が僅かながら高まった。時間外在校等時間が月間で80時間超の職員が累計6名であった。</p> <p>事故不祥事防止研修会等を計画的に実施し、当事者意識の醸成に取り組んだ。職員の意識は向上したが、様々な事故に対する認識には差があり、今後も継続した取り組みが必要である。</p> <p>働きやすい、風通しの良い職場環境の醸成には、まだまだ課題がある。</p>	<p>生徒と向き合う時間の確保、個々に応じた丁寧な教育活動を行うために、引き続き、業務の効率化、組織化を推進し、「神奈川の教員の働き方改革に関する指針」に沿った取り組みを進める。</p> <p>研修等を通じて、日ごろから職員の倫理観や規範意識の醸成に努める。相互の声掛けや横の連携を促し、風通しの良い職場づくりを推進し、事故不祥事を防止する組織体制を整える。</p> <p>学校運営協議会や衛生委員会等を積極的に活用する。</p>